

～ 人権・同和教育だより ～

「空に風 人に愛」

島根県立浜田高等学校
定時制・通信制課程

第9号 2021. 1. 26 (火)



< 人権・同和教育LHR >

定時制昼間部では、1月15日（金）に人権・同和教育LHRを実施しました。各学年で実施した内容について、簡単に紹介します。（夜間部については後日実施し、来月号のたよりで紹介する予定です）

| | | |
|--------|--|--|
| 昼間部 1年 | 「理想の友だち（ダイヤモンドランキング）」 ①友だちとのよりよい関係を作っていくために自分が大切だと思うことを考え、9つの項目から選んで、ダイヤモンドランキングを作る。 ②①の順位をつけた理由を書く。 ③グループごとに、自分のダイヤモンドランキングを見せながら順位づけの理由を発表し合う。 ④ワークシートで話し合い、グループとしてのダイヤモンドランキングを作り、その順位をつけた理由を書く。 ⑤グループごとに発表する。 | （ランキングを作る項目） ・よくないことを注意してくれる ・困った時なんでも相談できる ・うそをつかない ・相手を尊重し悪口を言わない ・失敗しても許してくれる ・勉強を教えてくれる ・自分の気持ちをわかってくれる ・一人でいたら声をかけてくれる ・話をきちんと聴いてくれる |
| 昼間部 2年 | 「ともに生きる社会を目指して」 ①ポイントを確認し、DVDを視聴する。 ・バスケットボールが好きな高校生の「田中くん」が、脳の疾患により、右半身不随になる。チームメイトと同じ練習ができないのに、田中くんは毎日体育館に通う。監督は、いろいろな不安がありながらも、高校3年生最後の試合に田中くんを出場させることを決意し、チームメイトは賛成する。 ・田中くん、チームメイト、監督、家族の思いを考える。 ②様々な立場の人たちと「ともに生きる社会」の実現に必要なことを考える。 | |
| 昼間部 3年 | 「差別意識の背景 ～部落差別の歴史（明治～現代）と現代の課題について～」 ①ポイントを確認し、DVDを視聴する。 ・明治時代、身分解放令が出たものの解放令反対一揆が起こったのはなぜか ・（1922年水平社宣言）被差別の立場の人たちが解放運動を起こしたのはなぜか ・戦後、差別は解消されたか？政府の差別解消への取組は？ ②DVDの内容を考察し、いろいろな立場の人たちの心情や状況、行政側の対応を知る。 ③差別の背景として、差別する側の感情によるものがあることに気づく。 ④身近な場面での偏見や差別の意識や問題について自分のこととしてとらえ、差別解消に向けて個人の行動が必要であることを理解する。 | |
| 昼間部 4年 | 「出会いから学ぶ（結婚差別について考える）」 ①ポイントを確認し、DVDを視聴する。 ・「闘いに勝つ」「差別に勝つ」とは ・高田美樹さんの、視覚障がい者のバンドとの出会いを通して ・高田さんの両親が受けた結婚差別、高田さん自身の被差別体験 ・人権教育、同和教育とは ②DVDの内容を考察し、印象に残った言葉や自分が感じたことを記入する。 ③クラス全体で自分の考えを共有する。 | |

1・2学期同様、各担任や副担任の先生が中心となって授業を実施しました。グループでの活動や、DVDの視聴を通して、自分自身や人との関わりについて、振り返ったり改めて気づくことがあったりしたのではないかと思います。授業後にみなさんが書いてくれた感想から、いくつか紹介します。（裏面へ続く）

昼間部1年生

- いろんな考えが聞けてよかった。人それぞれ求めているものが違うから、相手に合わせて関わりたい。自分が（人に）上位で求めていることをできるようになりたい。
- グループ内での発表時に自分の考えと同じだったり違う考えがあったりして、理由などを聞くとその考え方もいいなと思いました。一番大切なことも人によって優先順位が違うんだなと思いました。
- 今回気づいたことは、自分の友達に求めるものと他の人達が書いていたランキングは全然違っていただけでした。話し合いをしてみて気づいたことの一つで「よくないことは注意してくれる」ということの大切さです。注意されるというのは自分にとってあまり嬉しいことではないはずですが、間違っている自分を正してくれる人がいないのは、後々困る時がくるはずなので、耳が痛くてもその友達を大切にすべきだと気づきました。

昼間部2年生

- どんなことがあっても折れない気持ちも大事で、周囲の人達が助け合うことで皆の努力が良い方向に向くと思いました。
- 持つべきものは友だなと思いました。田中くんは友人や先生に恵まれていたと思います。友情ってすごいです。田中くんのバスケに対する熱量は想像していたよりも大きかったです。
- 私は親戚に障がいのある人がいて、確実に接する機会があります。これからも接し方について考えていきたいと思ったし、どういう人がいてどう接するのがいいのかも知りたいと思いました。
- 障がいなどは、自分の力だけではどうしようもできないことがほとんどなので、そのことを受け入れ、必要に応じて行動することが大切なのだと改めて感じました。

昼間部3年生

- いつの時代になっても、少しずつ差別を無くすためにいろいろ動きがあるけど、それでも今現在まだ残っているし、とても重要な課題だと思います。これから先も差別やいじめが無くなるとは思えないし、ネットが発達している今、人を簡単に攻撃することも可能な世界です。でも、少なからず、こういう勉強をして、自分は気をつけようと思う人もいると思うので、こういう勉強は大切だと思うし、自分も気をつけていきたいです。
- 明治という時代から現代まで差別問題が続いているという事実がとても悲しいです。自分の中でも差別はなくなるものなのかと思うくらい難しい問題だと感じています。人間一人一人の考え方は違うし、感じ方も違うし大変だと思います。でも自分にできる事があります。友達や家族を大切にすることです。自分もイライラしたりして当たってしまう事がありますが、これからは大人な対応をして接したいと思います。日本だけではなく世界から差別がなくなることを願っています。

昼間部4年生

- 差別とは、どこにでもひそんでいて、当たり前のように身近にある。自分の中だけで決めないで、信じられる人を作り、その人と相談して一人で考え込まないことの大事さ。逃げることも選択の一つ。……これは差別だけでなく、いろいろなことに通じるものだなと思いました。
- 就職差別や結婚差別、部落差別などいろいろな差別があるけど、差別されたその人自身は何も悪くないし、差別された人も差別した人も何も得をしないので、差別は絶対にしてはいけないと思いました。人権教育や同和教育は大切なことだとは思っていたけど、DVDを見て改めてなんで授業をするのか知れたのは良かったと思いました。また、高田さんの講演の中で『逃げればいい』ではなく『逃げてもいい』という言葉や、「差別に勝つことは、相手を言い負かすことではなく、自分が自分らしく生きることだ」という言葉が個人的にすごく心に響きました。
- 今まで何度もやってきた人権・同和教育でしたが、一番心に響いた授業だったと思います。自分も今まで差別はいけないなど、どうやったらなくなるのか考えたことはあります。もちろん自分自身差別をしたことはないと思っていました。しかし、高田さんの「全盲のミュージシャン」の歌にびっくりしたのと同じような経験を自分もしたことがありました。不自由な人が人と同じようなことをできたらすごいと思ったことがあります。それは、自分が心のどこかで、その人が他の人とは違うと少なからず思っていたからだと思います。それを今日の授業で気づくことができました。私もこれからは「誰かの考え」ではなく、まずは「自分自身の考え」から見直していこうと思いました。

(人権・同和教育担当：岡崎)

< 未来の投票率は86%～「参政権」も大切な基本的人権の一つです ～>

1月14日、昼間部1～4年生を対象に「主権者教育セミナー」を開催しました。浜田市選挙管理委員会の香川さんに講師をお願いし、選挙の仕組みや疑問点について分かりやすく説明していただきました。事後アンケートでは「選挙権を得たら投票に行きますか」の質問に対して「行く・行くつもり・行きたい」という人が86%おり、大変頼もしく思いました。「参政権」も大切な基本的人権の一つとして守っていきましょう。(生徒部 人権・同和教育推進委員：春木)